データベースシステム　121－5
情　報　学　基　礎　58－5
（2000．5．25）

新ミレニアムの女性科学者・技術者の可能性―「コンピュータ社会とジェンダー」

舘　かおる
お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

本講演では、21世紀の情報化社会におけるジェンダーの構築の問題は、必須の課題であると捉え、主に情報科学に関わる女性科学者・技術者の可能性について考察する。「理系」に進出する女性科学者・技術者数は、男性と比較して非常に少ない。その原因として性別特性論、再生産システム、「知」の担い手論、職種の性別特定化などが考えられる。一方近年、情報産業における「女性向け」情報の作成等については、女性たちの進出がみられる。しかしながら本来、コンピュータ及びインターネットの可能性は、性別や障害など人間を規定する要因を超えるところにある。それ故に、21世紀の女性科学者・技術者が、どのように政策決定の場に参画し、専門性に基づいた提言を行うかは重要な課題となろう。

CAPABILITY OF WOMEN SCIENTISTS AND TECHNOLOGISTS IN NEW MILLENNIUM:

Computer society and Gender

Kaoru TACHI
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

ABSTRACT

The capability of women scientists and technologists is to be considered in relation to the inevitable process of gender construction in the information-oriented society of 21st century. The number of women working in "natural and technological science" is still extremely limited today. On the other hand, within the information industry, there is an increased interest for mobilizing women, which typically emphasizes "female aptitudes" or "tastes". However, the potential of informational science lies in reducing the limits of human capabilities, not in underpinning fixed gender constructs. In this regard, women's scientists and technologists have important responsibility in information science policy making process.

1．はじめに――新ミレニアムと女性科学者・技術者

100年ないし1000年のスパンで、性別（ジェンダー）の構築と科学技術を考察する意義

・科学・技術の展開は、性別の違いによる経済格差を生じさせたか？

・科学・技術製品の使用者の性別により、その展開はいかなる様相を呈したか？

・科学・技術研究の担い手の性別は、科学・技術の質を規定してきたか？

21世紀のコンピュータとインターネットによる情報化社会におけるジェンダーの考察は必須の課題

2．女性科学者・技術者の現状

（1）　理系専攻の学生と研究者のジェンダー・バイアスの現状

（2）　理系専攻の学生と研究者のジェンダー・バイアスの原因

・「女性は理系に向かない」神話の存在――性別特性論

・ジェンダー再生産システム（生育過程）の問題

・研究者養成システム・機関における「知」の担い手の問題

・雇用現場における労働形態、登用の問題

（3）　コンピュータ領域の女性研究者へのインタビュー　　cf.村松[1996]

3．情報産業におけるジェンダーの問題

（1）情報通信産業の特色と課題　　cf. 労働省編『平成 11 年度労働白書』

特色　・女性の雇用率、中高年雇用率の低さ

・高学歴を反映した高水準の賃金

・フレックスタイム制、リフレッシュ休暇制の導入など柔軟な労働時間管理の進展

課題　・労働力不足を女性の活用で解消

・専門的知識・技能の高度化、新技術への対応、研修の充実

・長時間労働の解消

（2）情報産業の職務内容と女性活用の特定化

・ 管理職、営業職、ソフトウェア開発技術者、システムエンジニア、カスタマーエンジニア、プログラマー、オペレーター、OA 機器インストラクターなどにおける女性配属の特定と賃金格差

・ システムエンジニアなどにおける専門性と性別職域分離　　cf. 大槻[1998]
システムインテグレーション型 SE、　開発型 SE、　フィールド SE

・ 女性の能力活用領域の特定化――女性向けパソコン開発、ショッピングモール、女性向けビジネス・趣味・娯楽、プレスリリース、カスタマーサポート、教育研修サービス、障害者への貢献

（3）「女性向け」ゲームソフトの開発やインターネットの「女性向け」サイトの提供
女性のビジネスチャンスの拡大、インターネット起業を起こすチャンスと同時に
消費の拡大を第一義にするためのジェンダーの固定化再生産の危惧

（4）インターネットの性暴力、性の商品化、女性へのフレミング、有害情報の氾濫

（5）性別、人種・民族、階級、障害者、性愛のかたちなど、従来の人間の規定性を超えるネットの可能性

4．おわりに――――コンピュータ及びインターネット社会における女性科学者・技術者

（1） 女性科学者・技術者によるコンピュータ開発の社会的意義

（2） 女性科学者・技術者の政策決定過程における専門的提言の社会的価値

（3） 女性のコンピュータ活用能力及び情報発信手段拡大のサポートの立場性

（4） 科学技術開発及び活用、情報選択能力の育成におけるジェンダー視点導入の可能性

《参考文献》

柴山恵美子編著[1988]　『女たちの衝撃―コンピュータは女の働き方をどう変えたか』学陽書房

ハーバー、ルイス、石館・中野訳[1989]　『２０世紀の女性科学者たち』晶文社（Haber,L.,Women Pionners of Science,1979)

ケラー、エヴリン.F. 幾島・川嶋訳[1993]『ジェンダーと科学』工作舎（Keller,E.F.,Reflections on Gender and Science,1985)

村松泰子編[1996]　『女性の理系能力を生かす―専攻分野のジェンダー分析と提言』日本評論社

村松泰子ほか編著[1997]　『女性のパソコン利用と情報社会の展望』富士通経営研修所

大槻奈巳[1998]「性別職域分離の形成―総合職システムエンジニアの事例から」『女性労働研究』34 号

日本情報処理開発協会編[1999]　『情報化白書　1999』コンピュータ・エイジ社